
平成 30 年度 交通に関する明木地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水） 10：00～11：30

場 所：旭マルチメディアセンター

事務局：萩市、旭総合事務所、日本工営(株)

ご参加：34 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：旭地域の公共交通の路線で、市の補助金は年間どのくらいかかっているか。また佐々並地区は、ぐるっとバスをデマンド化したことで成果が上がっている。明木の方もデマンド化を進めてほしい。さらにぐるっとバスで直接旧萩市内まで行けると良い。特に病院まで行けると利便性が高くなるので、検討して頂きたい。

事務局：路線を維持するために、国、県、市が、赤字分の補助を捻出している。H29 年度では、全体で 1 億 4 千万円程度補助している。萩市の財政も厳しいことから、持続可能な対応を検討したい。

定時定路線型の運行は、次の便が来るまで、待つ必要があるが、デマンド化することで、帰りやすくなるメリットがある。デメリットは電話予約する必要があり、また運行側もオペレーションの確保が必要となる。その中で、どれを選択するか、住民の利用しやすさを考えながら検討する必要がある。

ぐるっとバスで旧萩市内への直通は難しい。直通だと、路線バスと重複することな

り、路線バスの利用者減につながり、将来的に路線バスが維持できなくなる恐れがある。

地域内はぐるっとバスで対応し、旧萩市内をつなぐ幹線は路線バスで対応したい。

参加者：利用者の立場にたった回答を頂きたい。例えばぐるっとバスの有料化も検討してはどうか。バス路線の補助金額の減額も検討し、バランスをとった検討をしていただきたい。

事務局：ぐるっとバスの直接旧萩市内への利便性も高いが、公共交通は安全確保の視点から、交通事業者が、国の認可を受けた上で運行することが第一となる。一方で、過疎化が進む中で、交通事業者が実施できないような地域もある。このような中で、交通空白地域においては、交通事業者以外でも運行主体となれる制度として、自家用有償運送の制度もある。

参加者：高齢者の生活支援バスとして、セレナを配置しているが、利用するための条件が多い。市の許可を受けているものでないと、運転できない。以前、佐々並と明木でそれぞれ1台ずつの配置をお願いした経緯もあるが、利用率の低さから、増台は難しいとの意見もあった。もう少し利用しやすくすると、利用率が上がるのではないかと。条件緩和が必要でないかと思われるがいかがか。

事務局：各総合事務所や大井地区に車両を配置している。福祉の介護保険制度を利用しており、その仕組みの中で、住民主体の高齢者の支え合いの促進を踏まえ、配置されているものである。また、利用対象者も要支援1、2等の限定がある。運転手も安全性の確保から、運転される方を登録して、運行しているのが実情である。福祉の介護保険制度での運用であるが、これ以外でも住民の支え合いによるコミュニティ交通を確保できないか、検討を進める。自家用有償旅客運送の運行も検討する。幹線、ぐるっとバス及びそれ以外の住民間の支え合いも含め、様々な移動手段を融合した交通体系を検討する。

参加者：今回のデータにあるように、幹線の利用料金が低い。また防長交通の乗降口が高すぎて、高齢者の人が乗りにくい。ご高齢の方は荷物をもった状態で、乗降しにくいと聞いている。

また、バスを利用する場合、明木には13時3分の壁がある。13時3分に萩から明木地区に帰る路線バス（13:03バスセンター発新山口駅行き）に乗れないと、ぐるっとバスとの接続が悪く、家に帰れないことがある。

また明木のぐるっとバスの周知が少ないのも、利用率の低い要因である。現状のぐるっとバスでは、診療所にしか行けないと勘違いしている人もいる。

住民の助け合いで、セレナを活用して、支線としての助け合いができればと考えている。ただし、白タクとの兼ね合いもあって進んでいない状況もある。旭大学という、高齢者向けのまちの学習会なども実施しており、免許の自主返納や、公共交通の勉強も実施している。路線バスに乗る勉強会などを実施しており、バスが必要になる前からの働きかけも必要と思われる。

事務局：利用料金は、特に遠いところほど負担が大きいので、利用促進の面も含め、福祉施策も踏まえながら、利用者負担を考えたい。旧町村部は同様の意見が多い。防長交通の乗降の問題については、交通事業者にも伝える。

事務局：13時3分のリミットについては、ぐるっとバスの運行体系を確認した上で、幹線と支線の乗り継ぎも含めて、利便性の向上を検討したい。

ぐるっとバスの周知については、周知活動を進めたい。高齢者が目的地に行ける仕組みが必要で、わかりやすい交通体系づくりに努める。

あわせて、住民の助け合いも含め、様々な交通体系を組み合わせる上で、足を確保したい。また、それを担っていく組織が必要で、支え合いの体系づくりも含め、大きな課題となっている、事業者、行政だけではきめ細かい対応が難しいので、3者が

協力した体系を検討したい。旧町村部の利用者負担の在り方は、大きな課題と考えている。

旭地域の勉強会の開催は、非常にありがたい。高齢者の方がわかりやすい交通体系を検討する。今後とも移動手段について、ぜひご意見を頂きたい。

13時3分のリミットについて、ぐるっとバスをデマンド運行に変えることで、接続を見直すこともできる。また、ぐるっとバスが担うのか、地域のコミュニティが担うのか、検討が必要。

運転免許返納が促されるよう、市も主体的にかかわりながら検討したい。須佐地区では民生委員の方が寸劇方式でぐるっとバスの乗り方講座を開いたこともあり、このようなモビリティマネジメントの考え方も交えながら検討を進める。

参加者：明木は、防長交通、中国 JR バスが走っており、便数も多いが、時間帯がかなり重なっている。通過時間帯にムラがあるので、これらの解消ができないか。

また赤字路線を走らせるたびに、補助金を補てんしているが、利用料金そのものを下げることで、補助金を減らすことはできないか。

事務局：広域幹線は新山口駅との接続に考慮して時間を設定しているので、交通事業者との話し合いが必要となる。利用者が使いにくい、料金が高いなどの課題も散見される。今の路線の運行体系を踏まえ、事業者とは検討を進める。

いずれにせよ、足の確保は必要であり、ニーズに応じた運行が必要となる。広域幹線、支線を含め、効果的な運行体系を検討したい。市・事業者、住民が一体となって移動手段を確保していき、また利用しやすく、利用促進に繋がるような体系を検討したい。

赤字路線による財政負担が増える状況で、運賃を下げることで、利用者が増えた先進事例もあることから、このような事例を勉強しながら、利用しやすい状況を検討したい。

参加者：防長交通は快速が止まらない。停留所もあるので、止まってくれるようにするとありがたい。

事務局：現在明木を通過する便は、秋吉台行きの快速便を除き全て、各バス停に止まっている。新山口駅に向かうバスも停車している。秋吉台行きの普通便への変更など、それぞれのバスの運行体系の見直しを検討する。

参加者：萩近鉄タクシーが、旧萩市から宇部空港行きのシャトルタクシーを運行しているが、明木には停車してくれない。一方で、大井には迎えに行っているとの情報もある。旧萩市内に行くのは時間がかかるため、対応していただけないだろうか。

事務局：以前、萩近鉄タクシーに明木での停車を頼んで断られたことがあると聞いたことがある。近鉄タクシーに一度確認する。

参加者：山口の方は、高齢者に対し、100円バスを運行しており、山口在住の高齢者はどこでも行けて助かると聞いている。また高齢者は、100円に割引してもらった分、お土産を買って帰るなどの例も聞いている。明木の高齢者もそういった制度を利用できるとありがたい。

事務局：山口市では高齢者の人に対し、福祉の施策として、70歳以上の高齢者が100円で移動できる制度をとっている。今回周辺部の方は、バス路線の費用が割高となっているので、福祉施策とも連携した、利用者負担の在り方も検討したい。高齢者が利用しやすい料金体系を検討する。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上